

小中学校の熱中症対策について

町田市議会議員 矢口まゆ 2019年9月定例会

WBGTを確認せずに体育祭練習を行い救急搬送....。

5月23日に市内小学校で救急搬送があり
その日のうちに各学校へ**注意喚起の通知**を**発出**。

しかし

27日、**WBGTを確認せず**に体育祭練習を行い
複数名が救急搬送。(この日東京都心では32.4度を記録)

WBGTを確認しなかつ
たのはなぜか

誰がWBGTを確認するか決まっていなかった為

6月議会での提案

①WBGT測定担当者の取りまとめ

“体育授業の時には担任が測定。学年単位の活動では学年主任が測定。全校単位の活動では副校長が測定。”
と言うように、さまざまな状況下において誰が測定を担当するのか、すべての学校に決めてもらい、教育委員会でその情報を取りまとめる。

②WBGT測定記録表の保管

確実に測定されるよう、事故の無い平常時でも、測定されていなかった場合には後から気が付くことができるようにすべき。記録表を作成するよう全学校に指導し、その記録表を一定期間保管する等の取り組みが必要ではないか。

スポーツドリンクの可否やペットボトルの利用についての学校差の例

- ▶ 小学校では、スポーツドリンクの持参については各校で大きく異なる。
(運動会当日のみOK,運動会練習日と当日はOK、毎日OK など)
- ▶ ペットボトルは不可とする学校がある。(小中どちらも)
→保護者からは、夏季にはペットボトルを凍らせて持参させたいという声もある。
- ▶ 持参していい飲み物の量が決まっている学校がある。

提案①教育委員会で、スポーツドリンクやペットボトルなどの持参の基準を決めたらどうか

- ▶ 今のままでは、同じ市内で同じ天候で過ごす児童生徒間であるにも関わらず、水分・塩分補給について差があり保護者からも不安の声がある。
- ▶ 『体育の授業、運動会練習など運動のある日にはスポーツドリンクの持参を許可すること』『5月～10月はペットボトルの利用を許可すること』など、教育委員会として最低基準を作成すべきではないか。

提案② 医師も交えた意見交換の実施

- ▶ 校長会で熱中症対策について意見交換をする際には、医師などの専門家も交えて意見交換をすべきではないか。